

日比谷野音大集会に結集しよう

革命的共産主義者同盟

砂川闘争に提起した労働者、農民、学生、市民諸君、米帝と結託した日米のカンボジア侵略の真只中、眼前に迫つた「六月」はき

わめて重大な歴史選択をわれわれにつきつけている。それは日米共同声明によつて安保同盟の維持・強化を認つた日帝が、自動延長によつてそのダメ押しを強行せんとしているからに他ならない。だが、それに怒憤して、日本帝國主義が米帝のカンボジア—インドナ全域への侵略拡大を尤だちに支援し、これと結託して、日米共同声明の発動としてカンボジア侵略に公然と踏み出したことによつて、帝國主義本國の全人民が、帝國主義に屈服し、反動と暗黒の道をたどるのか、それともこれをきつぱり拒否し、侵略戦争を内乱に転化し、もつて安保粉砕・日帝打倒をめざして新たな闘いに決起するのかわつて赤黒々な対決が迫られていることによつてい

まざり、く十〇年や、革命か反革命かの内乱死闘の時代であることが提起されているのだ。

砂川闘争に提起した労働者、農民、学生、市民諸君、今や全ての労働者、農民、学生、市民諸君、革命的左翼とよばれる諸党派までもが裏切りの道を歩かなくてはならない。

こうしたなかでしかえる「六月」はきわめて重大である。六月十四日から二十三日までの十日間を日帝のカンボジア侵略反対、日米共同声明粉砕、沖縄奪還、安保粉砕・日帝打倒の総力戦として闘い抜き、侵略戦争を内乱に転化する日本階級闘争の一大本流を形成しなければならぬ。六月安保決戦に勝利する課題はここにある。

全ての労働者、農民、学生、市民諸君、今こそ決意を新たにして六月決戦の最前線に立ちとどめてはなにか。六月一二日「六・一五」十周年記念・安保決戦勝利・革共同大集会」に結集せよ。

六・一五十周年記念 革共同大集會

六月安保決戦勝利
日 六月十二日 午後五時半
場 所 日比谷野音外音楽堂
記念講演 北小路 敏

主催 革命的共産主義者同盟
共催 マル骨竹同、マル学同(中核派)、マル高同
協賛 反戦青年委員会(藤原慶久)、全学連(金山克己)
反戦高協